

# 早稲田ヨットクラブ 会報

第4号

昭和54年3月 発行  
発行所 早稲田ヨット  
クラブ事務局  
会費振込先  
第一勧業銀行日本橋支店  
普通預金 一四四五七三九  
口座番号  
ワセダヨットクラブ 近藤光徳

やっと、ここにまで

やりました(事業報告)

五十三年度のクラブ運営は、総会・理事会の決議事項に基づき、事務局の日常業務運営により、以下諸件を執行致しました。

(1) 現役ヨット部への援助

早稲田大学体育局ヨット部に対し、当クラブとして五十万円の寄附を致しました。

(2) 稲龍関係

クルーザー「稲龍」号のエンジンを、ヤマハ発動機御殿より寄贈を受けましたので、その取付け工事及び関連改修費用等、六十万円余を、稲龍会計に援助致しました。

(3) 繰越負債返済

五十二年以前発生した債務が、岡本造船所に対してありましたので、返済しました。本件解決に当たり、岡本造船所の御協力を得たことに感謝致しております。

(4) 名簿作成

久しく不自由かけていましたので、名簿を作りました。五十三年末ギリギリに

印刷が上り五十三年度会費迄完納された皆様には、既にお届けしました。又、その他の方々にも、五十三年一月理事会に於いて、承認を得ましたので逐次お届け出来る予定です。

この名簿作成に当り、広告その他で御協力いただいた皆様から御礼申し上げます。又、内容に不備な点が多い事をおわびします。

(5) 規約

クラブ規約は過去幾度か作られたのですが、昨52年度総会に於いて決定された新規約を、名簿内に印刷しました。既に、この規約に沿ってすべてを運営しております。

(6) 追記

当クラブは、五十二年度期初を財政的にマイナスの状態です。スタートした為、入るを計って出ざるを制するに忠実の余り、OB諸氏の中にはその為の不愉快な目に逢われた方もあったと存じます。他意ありませんので御ゆるし下さい。

これで現執行部は、その任期(二年)を終ります。皆様の御協力に心から御礼申し上げますと共に、不完全な状態で次のメンバーに引継ぎせねばならぬことを心苦しく存じております。

各年代各位の絶大な御協力を得て次の執行部のもとで、ワセダヨットクラブが、ヨット界に於いて指導的な役割も果たせる様な存在になることを祈っております。

## 【会計報告】

### 一二〇名が協力！ 納入率 三三%

五十二年度総会に於いて決定された方針、即ち、

- (1) 全会員から納入していただく
- (2) 年会費を、一〇、〇〇〇円とする
- (3) 五十二年度以降徴収

の三原則に基づき、皆様に呼びかけた結果、別表・一覧表の如く百二十名の諸氏が納入して下さいました。(五十四年二月末現在)御協力いただいた皆様から御礼申し上げますと共に、今後共相変らぬ御協力をお寄せ下さいます様お願い申し上げます。

又、本日現在未納の方も、是非共、御納入賜われます様、お願い致します。納入いただいた皆様には、その都度理事長名による御礼状を差し上げておりますが、この一覧表にてご確認下さい。

## 会費納入者一覧表

(括弧付数字は卒業年)

- (52年度及び53年度納入者)
- (1) 小沢、(2) 松山、(3) 新名、(4) 永元、植松
  - (5) 堀江、(6) 隈部、(7) 突生川、(8) 清水、(9) 林、(10) 伊井、板倉、染谷、(11) 漆原、渡辺、上田、小俣、(12) 古川、(13) 岡谷、河村、大津、(14) 金沢、麻野、米田(秀)、石川、米田(隆)、安藤、(15) 是枝、千葉、松本、遊佐、浜田、浅山、(16) 杉山、舟岡、(17) 武村、中田、山泉、山崎、(18) 清水、加藤、(19) 岡村、北河、山品、並木、泉、大河内、高橋、清田、内藤、(20) 山田、(21) 原田、(22) 原田、小沢、石田、伊藤、(23) 中島、木村、出、倉谷、近藤、(24) 浅野、斑目、(25) 大、生田、杉山、小島、山中、松島(4)、森、斎藤、滝、頼、長沢、清水、江上、小浜、八藤丸、小坂、岡田、石井、後藤、(26) 須藤、(27) 大矢木、(28) 川瀬、岩崎
- (以上 八六名)
- (52年度のみ納入者)
- (29) 藤村、(30) 間瀬、(31) 堀、(32) 横田、(33) 石垣、(34) 村瀬、(35) 岩本、(36) 渡辺、(37) 桂、(38) 横山、(39) 岡戸、大原、佐々木、石合、千津井、豊田、尾崎、原、石川、金刺、(40) 北島、(41) 武藤、(42) 町田、早川、山田、(43) 矢野、(44) 三塚、林、栗林、井上、坂本、(45) 青木、(46) 庄司、(47) 角田
- (以上三四名)
- (註) 五十四年度納入の方がありませんが、総会以前の為、預り金処理しております。
- (以下2頁下段へつづく)

347  
600  
18

### 総会召集御通知

五十三年通常総会を次の通り開催致します。全会員の皆様の御出席をお願い致します。

記

一、日時 四月六日(金)  
午後六時半～八時半

二、場所 永楽倶楽部

(東京都千代田区大手町一  
一 丸の内野村ビル七階)  
TEL 03-3116429  
(富士BK本店のとなりです)

一、議題

五三年度 業務報告

五三年度 会計報告

五四・五五年度 役員選出

五四年度 運営方針

五四年度 現役役員承認その他  
引き続き懇談会を行います。

一、会費 一人 二千元

同封のご返事のハガキを三月末迄にお願いします。

永楽倶楽部は稲門のOB財界交流の場であり、多数御参集下さる様おねがいします。又、吾々ワセダヨットクラブもその人の輪を拡げてゆきます。御夫人の同伴を歓迎します。(同伴者の会費は二千元とします)

### N・E・W・S

#### 現役ニュース

昨年の全日本では、優勝戦線での健闘空しく四七〇級四級入賞にとどまり、残念であったが、秋には新人シリーズでとうとう全員坊主頭にもなり、今、捲土重来を期している。

二月十日、合宿開きを行い、既に何回かの合宿練習も重ねている。

今後の日程は次の通りです。

四月十四・十五日

六大学レース・葉山

四月二十八日～五月六日

関東インカレ・葉山

五月二十六日～二十七日

早慶レース・二戸浜

尚、今年の全日本インカレは仙台に決定しています。

#### 早風会開く

去る十一月始め、日本橋東急食堂に於いて早風会が開催された。これは、早風十七回忌に当たる。月日のたつのは早いものです。御遺族の皆様も元氣なお顔を見せて下さった。早風を偲び、旧友を想い、昔をなつかしみ、秋の一夕を過ごすことができた。今度は早稲田か、海で、という声も出た。遂には限部先輩の音頭と相違に出来上ってしまいました。

### 家族会 賑やかに

小沢信三郎御夫妻に仲人をしていただいた十二組の夫婦家族を中心に、何度か家族会を続けていたが、昨十一月三日、参加者の枠をひろげて、ヨット・クラブ・ファミリー・パーティを開いた。

場所は、大隈庭園。当日は校友会の秋の園遊会なので屋台も沢山でて、ヤキトリ・天ブラ・寿司等も楽しめた。

嫁ハンにワセダを見せたことのない人、ワセダに今日は試験なしで入れるぞという人らが賑やかに参加した。

このヨット部グループは、校友会でも、そろそろ名物になり、今回も村井総長が「やあヨットの皆さん！ 今年もお

元気で結構ですな」と声をかけて下さった。

村井総長をまきこんで「フレリー・フレリー・ムライ！ フレリー・フレリー・ヨット部！」をやり、更に、今回退任される総長に「アリガトウ・アリガトウ・ムライ」の声を送った。

今年は混雑がひどく、子供達が遊びにくかったため、五十四年度は、春の校友会か、又は合宿所で、夏の運動会でもやるか、と考慮中である。

当日参加者小沢御夫妻以下他約十組の夫婦と子供達と、クラブ員単身参加約二十名でした。今回は幹事が酔っぱらって、全員記念撮影を忘れたことをおわびする。

卒業年度グループ	クラブ員数	53年度マデ完納者	52年度マデ納入者	計	納入者%	完納率%
8-20	74	8	3	11	(15)	(10.8)
21-30	78	25	4	29	(37)	(32)
31-40	102	36	3	39	(38)	(35)
41-53	106	17	24	41	(39)	(16)
計	360	86	34	120	(33)	(24)

(注) 53年2月末迄の納入分です。

#### ワセダヨットクラブ53年度会計報告案

昭和53年12月31日 (53. 4. 1~53. 12. 31)

収入の部		支出の部	
クラブ費	1,393,000	庶務	116,000
{52年度分	653,000	文具	9,190
{53年度分	740,000	送印	7,060
理事会費	115,000	印刷	69,750
広告料	280,000	報状	18,000
寄附金	30,000	理事	12,000
利息	1,219	ヨット部	158,560
小計	1,819,219	稲電	500,000
52年度繰越金	256,232	稲電	600,000
		4大学	35,500
		交際	30,000
		体育	14,500
		航海	5,000
		現役	160,000
		海外	200,000
		現役	30,000
		小計	1,839,560
		小計	235,891
合計	2,075,451	合計	2,075,451

# ワセダ・ヨット

## 誕生の頃

小沢信三郎

### (日本のヨット協会と、 学連の発足)

昭和七年四月、東京みなと祭りが行われ、海に関係ある種々の行事催しのあれこれをもたれた。折から、関東・琵琶湖、博多のヨット同好の士が、互いに連絡をとりあってヨット協会設立の気運も高まってきたのであった。

関東では三田ヨットクラブが、関西では日本ヨットクラブ(後に琵琶湖ヨットクラブと改称)が博多の同好の士も交え、夫々中心になって、東西同時に先づ、東部日本ヨット協会、西部日本ヨット協会を発足させ、更に両協議の上、昭和七年十一月二十三日、日本ヨット協会は発足したのである。

この動きに応じて、学連発足を計画することにになり、慶応義塾大学(平松氏)、東京大学(清水氏)、早稲田大学(小沢)らが協議して学連(関東)を発足させた。当時の加盟校は早稲田・慶応・東大・商船・関東学院であった。

### (早稲田ヨット部初期活動)

それより前に、私は小学校四年の頃、ボートに帆をつけた如きデザインギーに、

船頭つきで乗ったのが始めて次第に海に親しみ、中学一年(大正十一年)頃は、十八呎のヘビークール・クルーザー「ロースター」に乗る様になり、葉山の海でヨットの生活を重ねていたのである。

やがて早稲田の同好の士を集め、昭和七年には小暮祥夫君(昭和13年OB)や他の学院生、薄、千葉両ラグビー部員、財部五郎君らと共に、クラブとして発足させて昭和八年には前記各校と共に、第一回学生選手権を行ったのである。

### (部活動の開始と、慶応の好意)

その年、昭和八年六月頃、田原・中橋・藤村・松山らの諸君がヨット協会に訪ねてきて早稲田でヨットをやりたいが、との問合せをしてきた。そこで早稲田に既にヨットクラブがある事を話し、一気にヨット部としてのまとまった練習を始めることになった。

練習は三田(田町駅)附近のボート屋をベース・フリーとした。このボート屋は慶応が練習していたところであった。練習艇は私のもの(二隻)と、慶応の船を借り始めたのである。早稲田ヨットクラブは、慶応ヨットクラブの助けを借りる事、大であった。

### (スターとオリンピック)

田原・中橋・藤村・松山の諸君が、オリンピック種目艇たるスター級を建造する計画を立てた。当時「スター級」は、三田ヨットクラブと財部家が所有しているだけであり、早稲田の新艇が、正式な図面によって造られた最初のものであった。メーカーはアルタ造船所で、千葉五郎先輩(ボート部OB大正12年)に大変なお世話になったのである。このスターを「紺碧」と名付けた。

昭和九年になるや、ベルリン・オリンピックを目指して、予選が始まった。第一次予選の終わった段階で、甲種合格の私は軍隊入隊が決り、以後の予選の結果、藤村君が候補選手になったのである。同君をマン・ツィ・マンで、良くきたえたものである。

その後、昭和十一年四月、横浜小港海岸でオリンピック日本代表決定競技会が行われた。

モノタイプ(国際12呎級)で、早稲田の藤村、同志社の吉本氏が決った。

スター級では、九大の「玄海」(三井・竜野)、パリアー(財部兄弟)、早稲田の「紺碧」(中橋・田原)、慶応の二田(村木・平松)で争われ、玄海が一位となり三井・竜野・財部(実)が代表となった。

この頃、早稲田のデザインギーは艇数をふやし五艇になっていた。

### (イシターカレツアの記録)

第一回 昭和八年十一月三日 品川鮫洲にて。参加校 八校 慶応、同志社、阪大、九大、東大、名医大、早稲田、関東学院であった。この大会は第七回明治神宮体育大会(現在の国体の前身)を兼ねたもので、国際級で行った。この大会では慶応が優勝した。同日、東西大抗を行い私は一位だったが東西対抗では同点で引分けた。

第二回 昭和九年 横浜本牧沖。

参加八校 早稲田、慶応、医大、九大、商船、同志社、関大、阪大であり、同志社が優勝した。

第三回 昭和十年八月十一・十二日 名古屋築港外にて。

一位・慶応、二位・早稲田、三位・九大、同志社  
この日は全日本選手権も行われ、本邦最初の実況放送をJOCKが行った。  
この年の神宮大会級では、小沢一位、村瀬正夫三位であった。又、5米級で足速(藤村)一位も記録されている。

### (入隊、その後)

大学卒業後一年にして、丸一年の軍隊生活を浜松の高射砲連隊で過ごし、昭和12年除隊となった。

この間、早稲田ヨット部は、前述各氏の努力と熱意で一気に人数をふやし、前

記諸君を中心にして、六十名余りの世帯になっていった。保有艇は、ローン・スターの他、一二呎級八隻でその他二十四呎「さくら」(某氏寄附)二十二呎「カイト」(小沢吉太郎艇)も使っていた。

これ以降の部の発展については、各年代のOB諸氏の努力の積み重ねで、今日に至る訳であり、学生ヨット界のカップのすべてを集めた黄金時代も、右の時代の直後にきたのである。それらの事は、その時代の主力メンバーに大いに語ってもらい度いと思う。尚、私は十五年より終戦後二十三年に至る八年を、新潟で過ごすことになる。

(ヨット部史の巻頭を飾るものです。この企画を継続する為、小委員会を編成することを総会におはかりする予定です。有志の方お申出下さい)

### 呉先輩急逝さる

五十四年一月二十五日、十六・三〇、呉政男氏(十八年OB)は、心不全の為急逝された。

同氏は、台湾の御出身で、学生時代は空手、拳闘、ヨットと多彩な活動をされ、毎日新聞入社後は運動部記者として、ボクシング、ヨットを担当された。ヨットの記事を写真入りで良く紹介することに努力していただき、毎日新聞、スポーツニッポンの紙面を賑々かさった

ものである。一方、ボクシングでは、日本初の世界チャンピオン白井義夫の全盛期「大学の虎」後藤秀夫の活躍の頃健筆をふるわれ、そのさわやかな文章は、巨体に似合わぬスマートさが好評であった。

告別式は一月二十七日、ヨット界、ボクシング界、マスコミ界の人士多数参列し、小沢吉太郎氏を葬儀委員長として、自宅でしめやかに行われた。静かな「都の西北」でお送りした。

皆様と共に、ご冥福をお祈りする。

### 慶弔報告

(一) 別掲記事の如く、今回、呉政男氏逝去に伴い、新規約制定後、初の弔事となつた。

(二) 一月二十六日の理事会に於ておはかりして、クラブより花輪を贈呈した。又御香料は各個人にせず、クラブ名にて一括差し上げ、有志一定額三千元ということにした。今後この方法を前例としたい。

(呉様御遺族より、現役へ御寄附)

二月二十五日、呉先輩の四九日法要が行われた。その機会に、御遺族より、早稲田ヨット部に金一封の御寄附をいただいた。謹んでご報告申し上げます。

### 木本秀和氏急逝

三月十一日、木本秀和氏(昭和二五年OB)は心筋梗塞のため急逝された。同氏は戦後荒廃した早稲田ヨット部再興の

ため献身的な努力を重ねられ、その業績は高い評価で語られている。皆様と共にご冥福をお祈りする。なお葬儀(施主長男英一氏)は三月十七日、南大阪教会において行われた。

(現住所 奈良県天理市前裁町二一九)

### 名簿訂正 (括弧付数字は卒業年)

- (8) 小沢忠次郎 住所 T一九〇 立川市羽衣町一四一三
- TEL 〇四二五―三三一―八八七
- 御田原正信
- TEL 〇七九八―七二―二三〇九
- 御堀利之助 住所 〒六九〇 松江市西津田町一三二二 コーポひのきやま二〇九
- 御久保田正敬 住所 〒二七二―〇一市川市日の出町二二 ソフトタウン行徳B一六二五
- TEL 〇四七三―五七―〇二二四
- 御浜田 裕 住所 〒一九二八王予市津木町九四〇―一三三
- TEL 〇四二六―四四―八二六一
- 御熊谷直孝
- TEL 〇四四―九六六―三六二四
- 御由良精造 住所に「佐藤ビル5F」
- 御足立 通(転勤) 〒五六二
- 箕面市新稲六丁目一五―二三
- TEL 〇七二七―三三―五一八三
- 御大谷たかお 住所 二五一藤沢市く

### 編集後記

五十三年中に、四号発行予定のところ、遅れたことをおわびします。事務局長近藤氏の眼病その後も、香しからず、三月五日より手術の為入院。二週間の療養の予定です。

五十三年度の総会を二月中に開催せねばなりません。各理事、各事務局員、夫々多端にて、手配おこなっています。この会報作成と平行して手配中。諸氏の御協力を期待。

現役諸君も、シーズンに入り、合宿を重ねています。陽に陰に応援して下さい。並木先輩の「月光」でのレース・リポート。同氏多忙にて今回間に合わず、御容謝下さい。専門誌に投稿されますので、御一読下さい。

至らぬ理事会・事務局に御協力賜わったこと心から感謝しております。皆様に対する御無礼の段、重ねておわびします。

名簿に対して珍(?)重なご意見を多数いただきましたが紙面の都合上次号に掲載いたします。

げぬま二三三八  
勤務先 パーフォーマンス・セルクラフト・ジャパンKK  
TEL 〇四六七―七六一―〇五一